

学位審査報告書

平成21年7月21日

自然科学研究科長 殿

審査委員会主査

下記の者に係る学位論文の審査及び最終試験を終了したので報告します。

記

1 論文提出者の所属専攻、氏名

専攻名等 環境共生工学 専攻 人間環境計画学 講座

氏名 磯田 桂史

論文発表会 開催日 平成21年7月17日

場所 工学部2号館2階 222講義室

2 論文題目名 (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)

明治期熊本における近代工業建築の研究

3 論文審査の結果の要旨

本論文は明治期の熊本で建設された工業関係の建築について、建築史的に考察したものである。明治の洋風建築については、従来様々な研究書が出版されているが、大方は東京や大阪など大都市圏か、あるいは全国的に主要なものだけが取り上げて概観したものがほとんどであった。反面、地方都市のレベルでは、どのような過程を経て西洋建築が導入されてきたのか体系的に研究されておらず、この点、熊本も例外ではなかった。明治期の熊本には九州の中心都市として政府の機関が数多く建設され、その建物は洋風の建築であった。これらの建築については、断片的に主要な洋風建築について知られているものの、詳しい建築的な内容については研究されておらず、まして体系化もされていない。したがって本研究はその手始めとして工業関係の建築について研究したものである。

第1章で研究の目的と方法を述べ、第2章で明治期の熊本の洋風建築について、ほぼ網羅的にそのリストを作成し、構法、建築種類により分類した。このようにまとめた研究は今までにないもので、今後の熊本の明治建築研究に非常に有意義なものとなっている。第3章では熊本駅近くの熊本紡績工場の煉瓦造建築について、建物の図面と機械のシステム一式を輸出したイギリスのプラント会社による工場図面を現地の公文書館で発見し、この図面を実測で作成した平面図と照合し、明らかにこの工場がこの会社によって設計されたことを実証した。第4章では、水俣に残されている日本窒素肥料工場の煉瓦造建築の実測調査と文献研究の結果について考察し、この工場が明治42年に建設されたことが判明した。第5章では熊本

高等工業学校本館について、大正期に作成された簡単な平面図と現存の古写真をもとに立面図を復元し、同時期に建てられた米子高専本館と比較検討し、さらに考察を加えたものである。第3章とともに、本論文の主要部分となっている部分である。このように、本論文は明治期熊本の工業建築についての詳細な研究となっているもので、今後熊本での近代建築導入の過程を研究する上で、貴重な研究と認められるものである。

以上の理由から、磯田桂史氏は、本論文の内容とともに総合理解力の試験においても、最終審査の予備検討結果として十分な能力があると認められることを、ここに報告する。

#### 最終試験の結果の要旨

審査委員会は、学位論文提出者に対して当該論文の内容及び関連分野全般について諮問を行なった。その結果、論文提出者は、当該分野及び周辺領域について十分な知識と理解力を有していると判断した。また語学力については、本論文の主要な部分について、イギリスの公文書館で直接現地資料を調査していること、また関連する分野について、外国語による国際会議発表が1編あることから、外国語に関しても十分な能力を有すると認めた。以上の結果に基づき、審査委員会は最終試験を合格と判断した。

#### 4 学位授与の可否及び授与すべき学位の種類

学位授与  否 (いずれかに○印で囲むこと。)

博士の専攻分野の名称 博士(工学)

審査委員会

主査	伊藤 重剛	委員	伊東 龍一
委員	位寄 和久	委員	村上 聖